

守るだけじゃない。 工夫し、変えて いくべきものがある。



八幡家の民泊の様子。受け入れ側にとっては、一気に孫が増えたような気分

市長 ありがとうございます。皆さんに共通するのは、地域の中で活動しているということ。今まで培われてきた地域の伝統の中で、まちづくりを展開されてきたと思えますが、一方で、工夫し、変えていかなければならないものもあるはず。伝統を変えたいということは怖さもあると

人輝かなければ、地域も市も輝かず。皆さんは地域の未来像の最先端です。



やまうち たかふみ 山内 隆文 (56、久慈市長)
平成18年3月6日合併後、新久慈市の初代市長に就任。地域を応援する施策として、平成18年度から「地域コミュニティ振興事業補助金」を新設。地域が行う地域づくり活動、伝統芸能、人材育成などに対して補助金を交付する事業を展開する。

思いですが、皆さんの活動の中で、工夫を凝らしてきた、凝らそうという取り組みがあったか伺いたいと思います。中平 二子漁業生産部では、高齢者も参加できるような漁場づくりを行っています。高齢者が洋上で作業するのは困難です。そこで、若者が船に乗り、高齢者は陸上でワカメやコンブの種苗を植えつける作業をするなど、分業制で行っています。そうすることによって、高齢者も収入が得られるし、お互いに負担が軽くなるんです。小倉 大川目という地域には、昔から住んでいる人と新しく住み始めた人たちが入り混じ



はちまん トシノ (67、山形) (霜畑自治会)

清水川湧水を活用した伝統保存食「凍み大根」の商品化に取り組み、近隣の宿泊施設へ納品。産直での販売も行う。また、地元や大地を守る会の料理講習会で郷土料理の作り方を指導するなど、県内外に山形の食を伝えている。

霜畑のまめぶは、霜畑で食べてこそ 本当の味がしますからね。

っています。そういった人たちと一緒にできるものはないかということ、以前から伝わる剣舞、虎舞、駒踊りの伝承活動と昨年の山口神楽の復活があります。また、新しい自分たちの活動として「音楽祭」の開催や「劇団」の招致など、地元の子どもたちに芸術・文化に触れる機会を与えています。子どもたちが大人になってから、地元を自慢できるようなれたらなあと思っています。市長 ありがとうございます。少子高齢化が進む中、高齢者が参加できる環境づくり、新しいやり方を模索した取り組みという点に共通のものを感

じました。また、新しいことへチャレンジすることで、取り組みへの自覚を芽生えさせるといふ点にも共感を覚えました。出町 わたしの自宅は築100年の古民家の建物です。明治の館と名付けています。一部改築していますが、明治時代の造りそのもので、釘を使わない工法で建てられています。平成18年には体験民宿として旅館業の営業許可を取りました。今年は、食品衛生法の営業許可を受け、農家レストランとして地区の方々と一緒に活動できればと考えています。市長 当たり前のように身近

にあったものを価値あるものとして自覚し、新たな視点で活用するという良い例だと思います。市内各地にもこういった建物がありそうですね。八幡 わたしは郷土料理「まめぶ」を伝承しています。平成4年、村生活改善協議会が食アメニティコンテストで国土庁長官賞を受賞しました。自分たちはなにも感じないで、当たり前と思って食べてきたものが、こんなに貴重なものだったのかと驚いています。受賞後、当時の村長に「まめぶを売り出しては」と持ちかけられました。断りました。まめぶってというのは、地元に来て食べてこそ本当の味がしますからね。実際、隣の家とも違いますから。これからも、自分の家に伝わったものを伝えていくことはいんじゃないですかね。市長 まめぶには家庭、地域によって違い、個性がありますよね。市内の地域も同様だと思えますよね。久慈市の中に個性のある地域がある。どこへ行っても同じではつまらないですからね。地域づくりもそうあるべきですね。



おぐら としゆき 小倉 利之 (48、大川目) (大川目町まちづくり協議会)

平成19年7月4日、「田園に響くふれあい音楽祭」を開催。事務局長として尽力。子どもたちが大人になったときに、「帰ってきたいと思えるまち」づくりを目指す。また、備前組や神楽の復活を手がける。活動の原動力は「ふるさと愛」。

手づくり山車の復活。眠っていた大川目が音を立てて動き出したようでしたよ。

大久保 夏井では、そばに関して伝承活動をしています。去年で13回目になります。地区の小学校で、ソバをまいて、そば打ちまでを一緒に体験します。5〜6年生に体験させますが、6年生は前年に比べて上達している、5年生に教えるまでになるのがうれしいですね。1回目よきの卒業生は社会人になっていますが、時々帰ってくる、「あのときのそばはおいしかったね」とか「味を忘れないよ」と言ってくれます。郷土の料理は忘れないで引き継いでくれているのだと感じます。市長 夏井のそばにも、霜畑のまめぶにも言えることです



備前組が復活させた虎舞は久慈秋まつりの人気者です

が、変えていくべきものと同様に、変わらないでいくべきことの大切さもあります。「ふるさと」とはそういうものなのかもしれません。

変わらないことも大切。
ふるさとの味とは
そういうもの。